

# STAGE3（探究的な学習×主体的なICT活用）の進め方 No1

岡山県教育庁義務教育課

写真：浅口市立金光小学校5年

令和4年度ICT活用推進リーダー研修参加者のSTAGE3の実践報告から、実践のポイントとして、次の4つが見えてきました。

1. 学習の中で児童生徒が問いを見い出しているか
2. 存分に探究できるように、児童生徒と教師で課題を設定できているか
3. まとめ・表現する過程で、アウトプットする場が設けられているか
4. 1人1台端末の活用について、児童生徒が自己決定できているか

これらのポイントを踏まえ、STAGE3の取組の工夫を紹介します。

## 児童が問いを見い出すためには毎時間の振り返りが重要

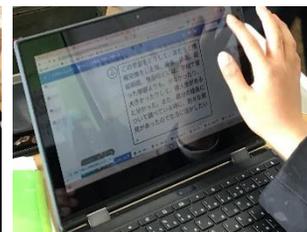
浅口市立金光小学校5年では、理科専科教員を中心にSTAGE3の実践に取り組んでいます。毎時間の学習後は「もっと調べてみたいこと」「気になったこと」「疑問に思ったこと」という視点から振り返りを行い、学習で見い出した問いを表現するようにしています。日々の学習の振り返りから探究的な学習の「課題の設定」につなげています。

理科「人のたんじょう」では、教師が立てた単元計画に沿って学習を進め、教科書や図書、インターネット等を活用して「人の子どもの育ち方」について調べ学習を行いました。グループでテーマを決めて資料を作成し、ジグソー活動を取り入れて発表します。学びを深めた児童から「自分も調べた内容と同じような育ち方をしたのだろうか?」「育ち方にちがいはないのだろうか?」などの問いが生まれ、そこから児童と先生で「自分が産まれる前の成長について調べよう」という新たな課題の設定につながり、冬休みに家庭で調べて資料を作成することになりました。

中には、10枚以上のスライドを作成し、数値の変化を表にまとめたり、画像を取り入れたりして資料を作成する児童がいました。プライバシーに配慮した上でグループ内で情報交換を行い、共通点や相違点などに気付く姿がありました。学習後には、「それぞれ体重や身長、お腹の中にいる期間が違うことがはっきりと分かった」「他の人が調べたことも知りたい」「くわしく調べてまとめたことで産まれてくることの大変さが分かった」などの感想がありました。



表を使ったスライドを称賛



振り返りの記入

実践者 平野貴之 教諭に聞きました！

## 実感をもちにくい単元だからこそ探究する価値があった

Q. STAGE 3の実践の手応えについて

A. 「人のたんじょう」は児童が実感もちにくい単元だと以前から感じていました。学習したことを生かして探究することで、実感を伴って学びを深めることができたと感じています。

Q. 他の単元での取組について

A. 「台風と天気の変化」では、今年の台風の進路はどうなっているかという児童の問いから、課題を設定し、学習した内容と比較しながら、共通点や相違点を調べてまとめることができました。